

6 . The Early Window Project: Sesame Street Prepares Children for School

John C. Wright, Aletha C. Huston, Ronda Scantlin & Jennifer Kotler

担当: 服部里衣子 (NHK教育番組部)

【Early Window Projectが生まれた背景】

番組初期の調査研究結果:

- ・ 子供達が「セサミストリート」を見ることで、学齢期に必要なスキルを身につけることができるという確固たる証拠を提供 番組を見ることを奨励された子供達は、番組で教えられた、読み書き能力、数、概念、そしてその他の認知的スキルのテストで見なかった子供達より、よい結果を得た。特に、当時の番組のターゲット(4歳)児童より幼い、3歳児が最も多く学んでいたという結果が出ていた
- 初期の調査から生まれた疑問と批判:
 - ・ 好結果は、番組視聴によるということだけではなく、親のサポートによるものではないか?
 - ・ セサミストリートが貧富の差を埋めるものではない 実際、その差は広がってさえた
 - ・ テレビは、学習を促進するメディアとしてふさわしいのか否か、
テレビの視覚的な性質は、子供達の言語能力獲得を減少させるのでは?
暗記的な内容は学習しても、より抽象的で、概念的なスキルは得られないのでは?
例えば良い番組でも、より直接的な学習の貧しい代替品にすぎないのでは?

【The Early Window Study】

- ・ Center for Research on the Influences of Television on Children (CRITC) によって実施
- ・ The Early Window Studyの調査はCTWから独立している。結果のいかんによらず、発表する権利を保障されてスタート
- ・ 実施時期: 1990 - 1993
 - a) 研究では、子供達は2 - 5歳、4 - 7歳までフォローされる
 - b) サンプルは、3つの民族グループ(アフリカンアメリカン、白人、ラテン)の低~中所得家庭の子供
 - c) 学校で必要なスキルのいくつかのテストが毎年行われる
 - d) 直接観察で、家庭環境のクオリティについて調査 - 親からもたらされる学習環境の影響と、テレビ視聴からもたらされる影響を区別するため。
 - e) 2つの異なる視聴情報を収集; 24時間の時間の使い方についての日記(年数回) 毎年の視聴頻度に関するレポート

・研究のゴール:

低所得者層のサンプルにおける視聴傾向を、年齢、性別、家族の特徴により示すこと
視聴に使われた時間がどのように他のアクティビティに使われる時間と関連するか調査すること
セサミストリートの早期視聴が、後の学校への準備にどう関連してくるか明らかにする

研究方法について

- ・ Design: 毎年家族はプロジェクトオフィスにて、テスト、観察、インタビュー、家庭訪問を受ける。これら4つの年間査定は“waves of data”と呼ばれる。Wave の間はperiod。各ペリオドの間、二ヶ月ごとに、それぞれの家族は前日子供がしていたことすべてを録音するために電話インタビューを受ける。
- ・ Sample: 未就学児童を持つ250家族。カンザス市、ミズーリ市などで、平均所得が低い家庭。
男女ほぼ同数。アフリカンアメリカン40%、白人40%、ラテン系20%、(その他もあり)
母親も父親も平均で13年の教育を受けている。ブルーカラーレベル。
 - a) Television Viewing; テレビ視聴については、日記から調査 親は、前日丸一日の子供の活動を記述する(どこにいたか、何をしていたかなど)。また主にしていた活動(first activity)と同時に、その

時平行でやっていたこと(secondary activity)、見たテレビ番組、その他の活動に使った時間(読書、ビデオゲーム、遊びなど)について記す。これにあわせて、年間の包括的なインタビュー調査も行われる

b) Family Demographics and the Quality of Home Environment:

The Home Observation Measure of the Environment (HOME)が家庭環境測定に使用

家庭環境において、どの基準が、子供の刺激と認知的、教育的、精神的、発展に影響があるか。

例) 母親の愛情、言語、知的刺激、おもちゃや遊ぶエリアの豊かさ、家庭外の人とのコンタクトなど。

c) Language and School Readiness Skills

開始時には、2歳児は、Primary Language Scale、4歳児は、Peabody Picture Vocabulary Testを受ける。Wave毎に、学問的、言語的能力が測られた。(文字認識や理解力、計算能力のテストなど)スペイン語が母国語の子供達はスペイン語のテストで。

Results

- ・ 性別での視聴時間の差はない(弟妹がいる子は、大きくなって見ている)
- ・ スペイン語を母国語とする家庭の子供達はよりセサミを見ていた(英語習得のためか)
- ・ 親の教育、収入、職業的地位は視聴に影響を与える。(特に母親の教育レベル)
良い環境の家庭の子は、よりセサミを見ている。保育園にいる子供の視聴時間は短い。
- ・ そのほかの活動時間を取って代わっていない セサミをよく見ている子供は、読書やその他の教育的活動にも多くの時間をとっていた。一方、カートゥーンや大人の番組をよく見ている子供は、読書や教育的活動をしない。またゲームを多くする子供は、セサミを見る時間が少ない。
- ・ セサミを見ている子供のテスト結果は、ほぼ、少ししか見ていない子供の結果より良かった。
しかし! 家族環境がよい家庭の子供は、セサミを見るように奨励するし、子供の学習に刺激やサポートを与える。セサミを見ていることよりも、家庭の性質によるものではないか???

そこで: 母親の教育年数、家族の収入、HOMEスコア、第一言語の違いに関するファクターを制御して分析 2歳から3歳にかけて5歳に至るまで、未就学者のスキルがアップ。特に、2歳児の視聴は、読書、算数、単語と関連し、3歳では、学校への準備のスキルに関連する。幼い時から見ていた視聴者(2 - 3)の多くが、後々も遅くから見始めた視聴者よりも良い結果。4歳児ではあまり、効果がみられなかった。(なぜ?)

Conclusions

- ・ この研究では、番組のカリキュラムで得られるスキルは、親のかかわり(あった方がいいが)必要としないことが示された。
- ・ 視聴時間において、恵まれた家庭の子供と、恵まれない家庭の子供の差はないが、後者は番組を見て、最大の効果が得られるほど、十分には見ていない。恵まれない家庭の子供に対して、視聴を奨励するための何かが必要。保育所の先生がセサミやその他の教育番組を見せるとか。。。)
- ・ セサミは、言語発達を妨げるものではない。暗記だけでなく、一般的な概念や、読み書きの能力、学ぶ姿勢も身につけられる。
- ・ 教育番組を早くから見ることは、子供達の学校への準備に貢献する!

【感想・コメント】

- ・ こんな長期の調査ができるほど番組が続いているということ自体がうらやましい。。。)
- ・ 親の影響を取り除いて分析したとなっているが、視聴しっぱなしよりは、一緒に見たり、その後一緒に話をしたりすることで、様々な情報が整理され、補われる。結局、番組で学んでもらって貧富の差を埋めるというのは難しいのではないか。。。保育所、幼稚園での視聴がどれくらい進むのか、どんな視聴環境にあるかも、課題でしょうか。